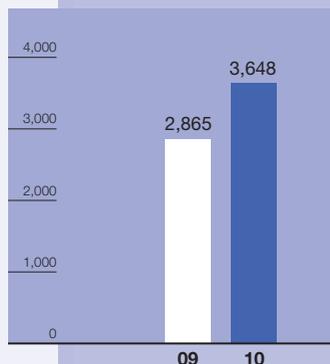
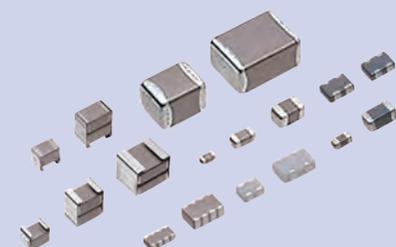
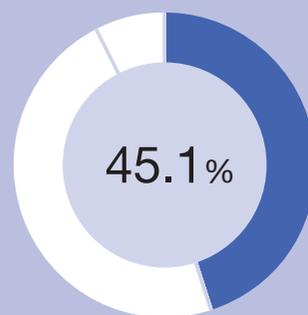


受動部品

売上高推移
(億円)



売上高構成比
2010年3月期



セラミックコンデンサ

セラミック誘電体を用いたコンデンサ。一部にリードタイプも使われますが、誘電体シートと内部電極を数百~千層以上も積み重ねてチップ化した積層セラミックチップコンデンサが主流です。薄層化技術・多層化技術により小型化が図られ、0603 (0.6×0.3mm)や0402タイプ(0.4×0.2mm)タイプのものが量産されるようになりました。大容量タイプは電解コンデンサの領域にまで迫っています。



アルミ電解コンデンサ

高純度のアルミニウム箔の片面に酸化膜を形成し、電解液を浸み込ませたセパレータ紙ではさんでロール状に巻いた構造のコンデンサ。薄い酸化膜を誘電体として利用するため、極めて大容量のコンデンサが実現します。電源回路の平滑用コンデンサ、バイパスコンデンサほか、デジタルカメラのストロボの充電用などに多用されています。

当製品区分は「コンデンサ」、「インダクティブ・デバイス」、「高周波部品」、「圧電材料部品他」の4つの事業で構成され、個々のEPCOS事業は当製品区分に振り分けて分類しています。

当製品区分の売上高は、3,648億5百万円(前期2,864億89百万円、前期比27.3%増)となりました。これは、EPCOS事業が前期においては下期6ヶ月のみを、当期においては通期12ヶ月の業績を連結計上しているため売上高が増加しました。「コンデンサ」:セラミックコンデンサ、アルミ電解コンデンサ及びフィルムコンデンサから構成され、売上高は前期と比較して増加しました。その主な要因は、産業機器市場向けの増収です。

「インダクティブ・デバイス」:売上高は前期と比較して増加しました。その主な要因は、自動車市場向けの増収です。

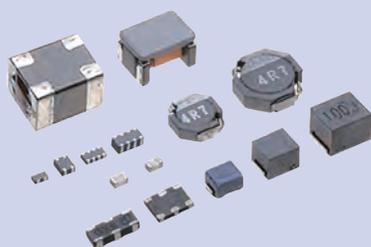
「高周波部品」:売上高は前期と比較して増加しました。その主な要因は、通信機器市場向けの増収です。

「圧電材料部品他」:圧電材料部品、回路保護部品及びセンサから構成され、売上高は前期と比較して増加しました。その主な要因は、自動車及び産業機器市場向けの増収です。



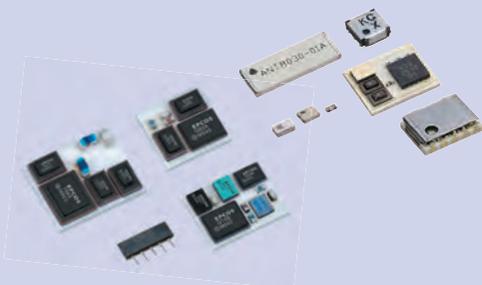
フィルムコンデンサ

PET (ポリエチレン・テレフタレート) やポリプロピレンなどの薄いプラスチックフィルムを誘電体として、これに内部電極となる金属膜を重ねたり、蒸着したりした構造のコンデンサ。多層積層あるいはロール状に巻くことで大容量化を図っています。絶縁性、周波数特性、温度特性などをバランスよく備えているため使い勝手に優れ、家電機器、車載電子機器などに広く利用されています。



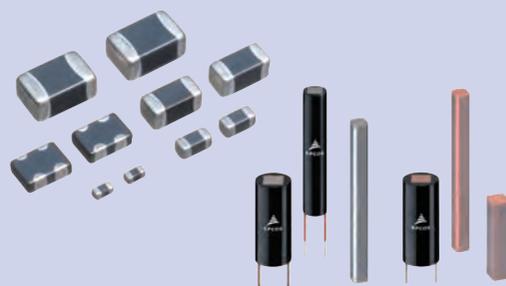
インダクティブ・デバイス

チョークコイル、トランス、共通モードフィルタなどのコイルを用いた製品、またトランスコアやアンテナコイルなどに用いられるフェライト、さらには電波吸収体や電波暗室なども含めた事業分野をTDKではマグネティクスと総称しています。蓄積した素材技術、巻線技術、シミュレーション技術などを駆使して製品の小型・高特性化を推進、省電力やノイズ抑制などにも大きく貢献しています。



高周波部品

携帯電話やスマートフォンなどの高周波回路に用いられる部品やモジュールを提供しています。主力製品はSAW (表面弾性波) フィルタやLTCC (低温同時焼成セラミックス) 技術による各種RFフィルタ製品など。半導体製造技術を応用したMEMS (微小電気機械システム) 技術による世界最小クラスの小型MEMSマイクロフォンも開発しました。



圧電材料部品&回路保護部品

情報通信機器や車載機器に使用される圧電 (ピエゾ) 応用製品や各種保護部品などを主力商品とします。ディーゼル車などの燃料噴射弁の制御に用いられるピエゾアクチュエータは、微細制御が可能で燃費向上に大きく貢献しています。また、保護部品であるバリスタやアレスタは静電気放電や雷サージから電子機器の回路部品を守る部品として幅広く使われています。



センサ

電子機器の多機能化、自動車の安全走行、ホームオートメーションなどに不可欠なのが各種センサです。自動車関連では、ギアトゥースセンサ、電流センサなどに加えて、シリンダヘッドの温度センサをはじめ多数の製品をラインアップしています。また、圧電 (ピエゾ) 技術やパッケージング技術を活かした小型・コンパクトな気圧センサは、医療機器や検査機器などにも用途を広げています。



記録デバイス

パソコンやサーバーなどに搭載されるHDD。TDKはHDDのキーパーツであるHDD用ヘッドの世界屈指のメーカーです。高感度な再生素子である先進のTMRヘッド、垂直磁気記録方式のPMRヘッドなどの開発により、HDDの小型化・大容量化に貢献してきました。HDDヘッドは半導体製造をしのぐ高度な薄膜プロセス技術によって製造されます。この技術は薄膜電子部品などにも応用されています。



電源

交流を直流に変換するAC-DCスイッチング電源、直流を必要な電圧に変換するDC-DCコンバータなど、パワーエレクトロニクスに関わる製品をTDKラムダのブランド名で幅広く提供しています。さらなる高効率化を図るデジタル制御電源も業界に先駆けて開発しました。また、電力変換に伴うエネルギーロスの低減には、最適材質を選択できるTDKのフェライト技術が役立てられています。



マグネット

フェライトマグネット、金属系マグネット(ネオジムマグネット、サマリウム・コバルトマグネット)、金属系軟磁性材料など、TDKの素材技術を駆使して開発されているのが各種の磁性製品です。ネオジムマグネット“NEOREC”は、HEV/EV(ハイブリッドカー/電気自動車)のモータや風力発電のジェネレータ、エアコンのコンプレッサ用モータなどとして使われています。

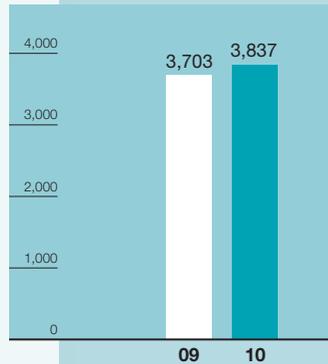


記録メディア

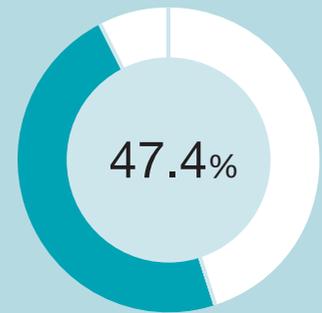
拡大する情報社会を支えるのがTDKの記録メディア。コンピュータ用バックアップテープLTOは大容量データのバックアップとして、また多層ブルーレイディスクは、データセンターの大容量データの保存用としても需要を伸ばしています。

磁気応用製品

売上高推移
(億円)



売上高構成比
2010年3月期



当製品区分は「記録デバイス」、「電源」、「マグネット」、「記録メディア」の4つの事業で構成されます。

当製品区分の売上高は、3,837億40百万円(前期3,703億32百万円、前期比3.6%増)となりました。

「記録デバイス」:主にHDD用ヘッドとHDD用サスペンションから構成され、記録デバイス事業の売上高は前期と比較して増加しました。主要製品であるHDD用ヘッドの増収要因は、販売数量増による増収が売価下落や米ドルに対する円高による減収を補ったことです。

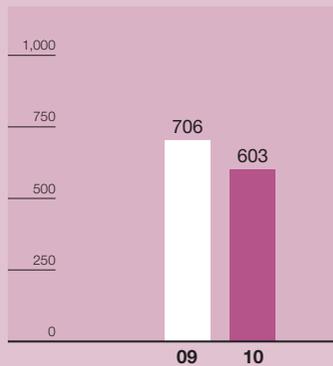
「電源」:売上高は前期と比較して減少しました。産業機器市場向けで増収となりましたが、無停電電源に係る事業の譲渡及び一部製品の終息等による減収を補うには至りませんでした。

「マグネット」:売上高は前期と比較して減少しました。HDD市場向けは増収となりましたが、他の市場向けの減収を補うことができませんでした。

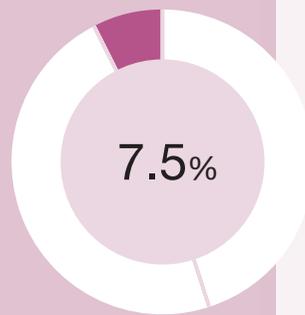
「記録メディア」:売上高は、前期と比較して減少しました。

その他

売上高推移
(億円)



売上高構成比
2010年3月期



その他は、「エネルギーデバイス(二次電池)」、「メカトロニクス(製造設備)」等の事業で構成されます。

当製品区分の売上高は603億13百万円(前期705億79百万円、前期比14.5%減)となりました。

エネルギーデバイス事業の売上高は、前期と比較して減少しました。



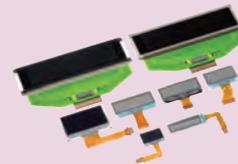
エネルギーデバイス(二次電池)

モバイル機器に使われる薄型ポリマーリチウムイオン電池、太陽光や風力などで発電したエネルギーを蓄える大容量リチウムイオン電池、また大容量EDLC(電気二重層キャパシタ)など、TDKはエネルギー分野でも積極的に事業展開しています。リチウムイオン電池の特性を左右する電極には、磁気テープなどで培った塗布技術が活かされ、エネルギー蓄積の高密度化の要求に応じています。



フラッシュメモリ応用デバイス

フラッシュメモリは電源を切ってもデータが消えない記憶素子。TDKでは独自のNAND型フラッシュメモリコントローラICを搭載した小型・高速のSSD(ソリッドステートドライブ)を開発、業界最高クラスの高アクセスを実現しました。



ディスプレイ

太陽電池と逆の原理で有機材料層を発光させるのが有機ELディスプレイ。バックライトを必要としない自発光タイプのフラットパネルディスプレイです。TDKの有機ELディスプレイは、高輝度白色発光素子とカラーフィルタを組み合わせた独自方式。応答速度が速く視認性に優れるなどの特長を持ち、カーオーディオ機器やデジタル携帯音楽プレーヤなどのディスプレイとして採用されています。



メカトロニクス(製造設備)

半導体製造において、ウエハをクリーンに保ったまま自動搬送する際のインターフェース装置(扉)であるロードポート、新たなIC実装方式に対応したフリップチップボンダなど、先進のFA機器も提供しています。ロードポートは高いシエアを維持しており、半導体製造の効率化に大きく寄与しています。